

## 「ふるさと通信～知ろう 語ろう『伊勢志摩地域』～」の活用について（小学校）

### 1 各教科等における指導事例

（※事例の一部です。総合的な学習の時間、特別活動等における取組も考えられます。）

#### （P 1）Q&A 伊勢志摩サミットとは何ですか？

世界の中の日本の役割についての学習において、伊勢志摩サミットに関わる記述をもとに国際交流や国際協力についての学習へ発展させる。（6年社会）

#### （P 2）■伊勢志摩地域ってどんな所？

流水の働きに関する学習の場面で、伊勢志摩地域の地形から、波の侵食による地形について学習する。（5年理科）

#### （P 3）■伊勢神宮

「日本書紀」についての記述をもとに、昔の人の物の見方や感じ方を知る学習（6年国語）や国の形成に関する考え方に関心を持たせる学習（6年社会）へ発展させる。

#### （P 4）■鳥羽・志摩の海女による伝統的素潜り漁

県内の特色ある地域の人々についての学習で、海女による素潜り漁を資源の保護を大切に活動の一つとして取り上げる。（4年社会）

#### ■安乗の人形芝居

地域の人々の生活に関わる学習において、安乗の人形芝居を人々が受け継いできた文化財や年中行事の一つとして紹介する。（4年社会）

#### （P 5）■ふるさとゆかりの先人の偉業

御木本幸吉を取り上げた「三重県 心のノート」（小学校3・4年）の資料と併用し、「希望と勇気、努力と強い意志」の学習へ発展させる。（4年道徳）

#### （P 6）伊勢志摩サミット関連行事2016年ジュニア・サミット in 三重

伊勢志摩サミット三重県民会議のシンボルマークや伊勢志摩サミットロゴマーク（P 1）から、感じたことを話し合い、表現の意図や特徴などをとらえさせる。（5・6年図画工作）

### 2 英語版の取扱いについて

- 上下切り離しになっておりますので、英語版については学年の発達段階に応じて、一時、学校で保管いただくということでもかまいません。将来の発展的な学習にご活用ください。
- 児童の発達段階や学校の状況に応じ、次のような活用も考えられます。
  - ・日本語版を活用して郷土についての学習を行う際に、参考として部分的に活用し、児童が自発的に英語による表現に関心が持てるようにする。
  - ・外国語活動において、ALT等が一部分を読み聞かせる取組や、外国人と触れ合う機会を活用してコミュニケーションを図る際のツールとして活用する。 等

## 「ふるさと通信～知ろう 語ろう『伊勢志摩地域』～」の活用について（中学校）

### 1 各教科等における指導事例

（※事例の一部です。総合的な学習の時間、特別活動等における取組も考えられます。）

（P 1） Q&A 伊勢志摩サミットとは何ですか？

国際社会の諸課題についての学習において、伊勢志摩サミットに関わる記述をもとに国際協調の観点から国家間の主権の尊重と協力等の学習へ発展させる。（社会公民的分野）

（P 2） **■伊勢志摩地域ってどんな所？**

伊勢志摩地域の複雑な海岸線の成り立ちについての記述から、地層の重なり（理科第2分野）や日本の様々な地域（社会地理的分野）についての学習へつなげる。

（P 3） **■伊勢神宮**

「日本書紀」の学習のきっかけとし、当時の人々の信仰や物の見方などに気付かせる学習（社会歴史的分野）や、歴史的背景に注意してその世界に親しむ学習（3年国語）に発展させる。

（P 4） **■鳥羽・志摩の海女による伝統的素潜り漁**

地域の伝統的な生活文化の学習（社会地理的分野）で取り上げたり、持続可能な社会の形成についての学習（社会公民的分野）において、身近な地域の生活との関連性に注目させる事例として取り上げたりする。

**■安乗の人形芝居**

我が国の伝統と文化についての学習（社会公民的分野）において、安乗の人形芝居を人々が受け継いできた文化財や年中行事の一つとして取り上げ、歴史的な背景等についても掘り下げて学習する。

（P 5） **■ふるさとゆかりの先人の偉業**

河村瑞賢、尾崎行雄（罌堂）を取り上げた「三重県 心のノート」（中学校）の資料と併用し、「社会参画・公共の精神」や「真理の探究・創造」等の学習へ発展させる。（道徳）

（P 6） 伊勢志摩サミット関連行事2016年ジュニア・サミット in 三重

伊勢志摩サミット三重県民会議のシンボルマークや伊勢志摩サミットロゴマーク（P 1）から、作者の意図や表現の工夫などを感じ取り、デザインに生かす。（美術）

### 2 英語版の取扱いについて

- 日本語版と比較することで英語表現について個人で学習することも考えられます。（※上下をあえて切り取らずに活用することも考えられます。）
- 「郷土三重」についての学習を深め、その魅力について英語でまとめたワンペーパー（1枚紙）を募集する「郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～」（県教委主催）の参加のきっかけとし、応募作品を英語でまとめる際の参考としてぜひ活用してください。
- 生徒の発達段階や学校の状況に応じ、次のような活用も考えられます。
  - ・日本語版を活用して郷土についての学習を行う際に、生徒が自発的に英語による表現に関心を持てるように配慮し、部分的に活用する。
  - ・英語の授業において、発展学習としての活用可能な部分を取り上げて読む学習や、ALT等による聞き取りの学習に活用する。
  - ・外国人と触れ合う機会を活用して、コミュニケーションを図る際のツールとして活用する。 等